

<p>2 【かかわる】</p>	<p>⑨ 【仲間や地域の人々とのつながり】</p> <p>幼児や高齢者の人々・障がいのある人々等と一緒に生活している地域社会において、互いに支え合う仲間の大切さや地域の方々へのありがたさを実感する。</p>	<p>総合</p>
-----------------	---	-----------

【題材】 ○陸前高田・気仙沼（被災地）バス見学学習会の実施

○復興教育学習会の実施

○支援校との交流

【対象】 4, 5, 6年（38名）

【実践の概要・詳細】

(1) バス見学学習会（7月6日）

気仙沼市内・唐桑半島ビジターセンターと陸前高田市内を4, 5, 6年生で見学した。

ア 気仙沼市内・唐桑半島ビジターセンター

車窓から市内に入るに従って建物が津波で流され雑草が生い茂る風景を見て、子どもたちは口数が少なく静かになっていった。その中で750mも運ばれた330トンの第十八共徳丸を見て津波の力の大きさに驚いた様子だった。ビジターセンターでは、職員が温かく迎えて下さった。自分も被災し、家族を失いながらも「教訓を後世に語り継ぐ」という気迫に満ちたセンター長さんの話は、子どもたちの心に響き、うなずきながら真剣にメモを取る様子がみられた。

イ 陸前高田市内

語り部さんから震災前の写真を見せられ、現在の風景との差が大きく、改めて津波の破壊力が分かった様子だった。特に駅前は30軒ほど店が連なる商店街だったが、それらが跡形もなく草地に変わっていた。語り部さんの一言一言かみしめるような口調は、静かながら当時の大変さが伝わってきた。



【第十八共徳丸】



【ビジターセンター長さんの話】



【道の駅「高田松原」】



【慰霊碑の前での黙祷】



【ビジターセンターに送ったお礼の手紙】



【語り部さんに送ったお礼の手紙】

(2) 復興教育学習会 (9月27日)

5, 6年生(24名)陸前高田市米崎町のカキ養殖業大和田晴男さんから「震災及び震災後の陸前高田について」と題して震災直後の様子や再建に向けての取組の様子を、説明していただいた。

特に、牡蠣養殖の再建に多くのボランティアの方が関わってくれたおかげで生産量が震災前の40%まで戻ったこと、さらに多くの犠牲者を出した津波について、常に命を守る行動を取ることが大切だと力強く話して下さいました。

講演後は、大和田さんが置いていって下さった津波の高さと同じ16メートルのロープを屋上から吊り下げ、津波の実際の高さを実感し、子どもたちは改めて驚いた様子だった。



【学習会の様子】



【津波の高さと同じロープ】

児童の感想

協力がとにかく大事だと思いました。話を聞いて、津波でどんなことが起こるのかわかりました。もし、何かの災害があったら、少しでも役に立つことをして助け合いたいと思いました。(6年 女子)

がれきで海が埋まり、歩けるほど津波が建物や車などを流し、大きな被害をもたらしたことがわかりました。それでも、陸前高田の人たちは、助け合って漁業に取り組んでいることがわかり、感心しました。(6年 女子)

やっぱり自分の身は自分で守らなければいけないし、助け合いが大事だということがわかりました。(5年 男子)

津波が来た所は、被害が大きく大変だったんだと思いました。それにたくさんの方がなくなったので、3月11日は忘れないようにします。(5年 女子)

(3) 支援校（大船渡市立赤崎小学校）との交流（11月7日）

5, 6年

ア プロフィール交換

交流会の前に3校の5, 6年生でプロフィール交換を行った。簡単な自己紹介（名前、好きな食べ物、趣味など）と写真を送り合って事前に相手の様子を知らせるようにした。子ども達は、教室に貼られた支援校の友だちの写真やプロフィールを見て交流を楽しみにし、当日配る予定の名刺作成に意欲的に取り組んだ。当日披露する伝統芸能の「坂水庭田植踊」の練習にも熱が入った。

イ 当日の流れ

8時、本校を出発して一路、陸前高田にある赤崎小学校を目指した。赤崎小学校の校舎は津波で使えなくなり、高台にある蛸ノ浦小学校の校舎を間借りし、二校が同じ教室で学習していた。校庭には仮設住宅が並び、震災の爪痕が深く残っているのを、子どもたちは肌で感じているようだった。3校による交流会のプログラムは以下の通りである。

1 代表挨拶

2 郷土芸能交流

- ①西小「坂水庭田植踊」
- ②赤崎小「赤小ソーラン」
- ③蛸ノ浦小「権現様」

3 ゲーム交流

(名刺交換ゲーム)

4 代表挨拶



【坂水庭田植踊の様子】



【赤崎ソーランの様子】



【ゲーム交流の様子】



【権現様の様子】

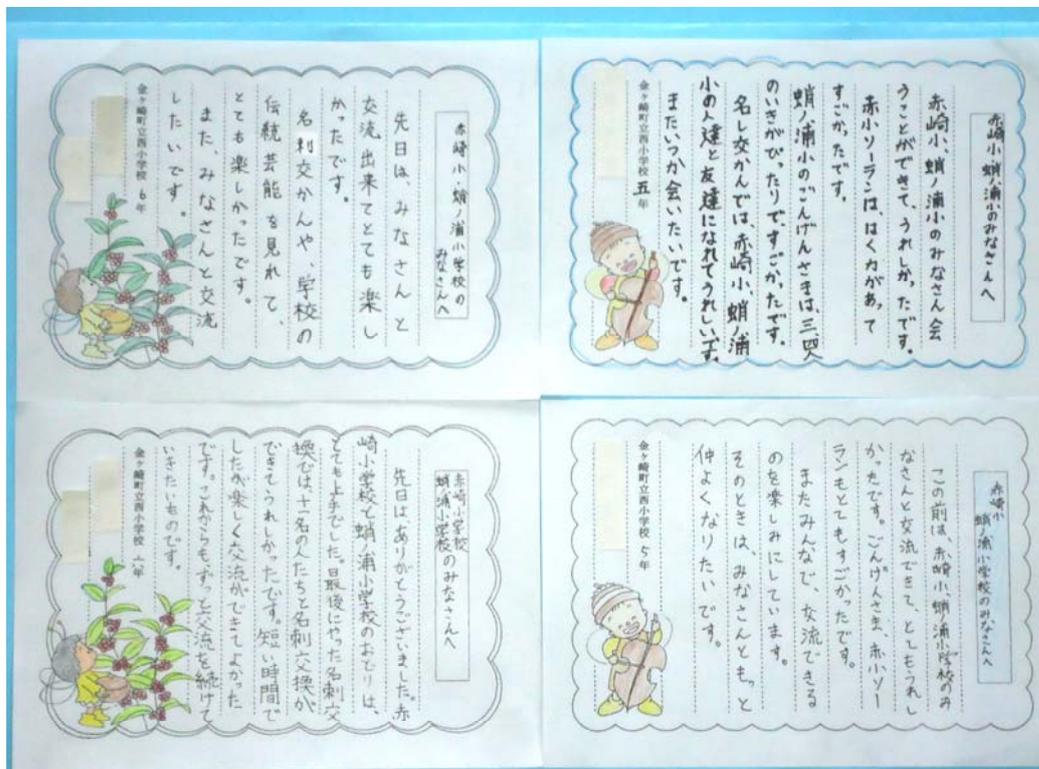
## ウ 募金の寄付

交流会終了後、校長室において本校、児童会副会長が、赤崎小学校の児童会会長・副会長に支援校に対する援助として毎月、11日に全校で集めている「絆11円募金」を手渡すことができた。赤崎小学校から、お礼のこぼをいただいた。

## エ 大船渡市被災地・碁石海岸見学

車窓から市内を見学しながら帰路に向かった。学校の近くには「がれき置き場」があり、その広さから被害の甚大さを感じることができた。また回りの塀には赤崎・蛸ノ浦両児童がかいた復興への絵が貼ってあり、復興への希望や願いが伝わってきた。その後、碁石海岸にも立ち寄り、三陸の海岸の美しさや自然の回復の早さを実感することができた。

### 【児童の支援校へのお礼の手紙】



### 【まとめ】

- (1) 被災地を実際に見学し、被災地の方の話聞くことにより、命の大切さや自然との共有に関することを学んだ。また、被災地のために何かしてあげるといふより、一緒にがんばろうという意識が変わってきた。自分たちの生き方・あり方について考えるきっかけとなった。
- (2) 講師の方の講話から、震災体験や避難の様子を聞くことで災害時の的確な判断と行動が大切であることを学んだ。また、日頃から災害を想定した備えが必要であることを理解し、実際の避難訓練では真剣に行動することができた。
- (3) 支援校との交流では、短い時間ではあったが、お互いに地域の伝統芸能を受け継いで地域を大切にしながら生きているという共通点を見出すことができた。また、指導して下さる地域の方や応援してくれる家族とのつながりを実感することができた。